

料金受取人払郵便

5 2 2 8 7 9 0

彦根支店承認

70

差出有効期限  
平成21年3月31日

彦根市元町4番2号

彦根市役所

企画振興部 まちづくり推進室

# 「市政への意見・提言」

係 行



やまおり

## 次のとおり封筒を作ってください

- ①キリトリ線(破線)に沿って切り、中央をやまおりにしてください。
- ②のりしろにのりをつけて貼り合わせてください。
- ③切手は貼らずにそのままポストへ投かんしてください。



# 市政への意見・提言

## あなたの声を市政に

市民の皆さんの声を直接聴き、対話の行政をいっそう進めるために、「市政への意見・提言」を実施しています。(年2回、1回目は7月に行いました)

彦根市では、市民の皆さんが健康で豊かな生活を送れるよう、福祉施策の推進、都市基盤の整備、自然環境の保護など、さまざまな事業を進めています。この「市政への意見・提言」で、多くの皆さんの考えを聴くことで、市民と行政のパートナーシップのまちづくりをさらに進めていきたいと考えています。

彦根市の進めている政策などについて、市民の皆さんの建設的なご意見・ご提言をお待ちしています。

いただいた意見などは、すべて市長が読んだ後、匿名のものを除き、担当部署から、郵送または電話などで回答いたします。回答を希望する人は、住所、氏名、電話番号を忘れずに記入してください。

### 「市政への意見・提言」の送り方

- ▶あなたが日ごろ市政に関して「このようにしてはどうか」と考えているご意見やご提言を、左の封筒か、彦根市ホームページからお寄せください。
- ▶封筒は切り取って、裏に意見などを書き、隅の「のりしろ」で貼り合わせて郵便ポストへ投かんしてください。平成21年3月31日(火)までは郵便料金は不要です。切手を貼らずにお出しく下さい。
- ▶彦根市ホームページでは、トップページにあるリンクから「市政への意見・提言」のページに行き、専用の入力フォームにご意見などを入力して送信してください。
- ▶お寄せいただいたご意見などのなかから、特に市民の皆さんに広くお知らせすべきものは、「広報ひこね」に掲載することがあります。なお、その場合も、住所・氏名・電話番号を公表することはありません。

問い合わせ先 〇まちづくり推進室 ☎ 30-6117、FAX22-1398、E-mail:machizukuri@ma.city.hikone.shiga.jp

### 身体障害者補助犬の種類

**盲導犬** 視覚に障害がある人が、安全に外出できるように、障害物の有無や段差、曲がり角を教えます。白または黄色のハーネス(胴輪)が目印となっています。

**介助犬** 手足に障害があり、日常生活に不自由な人に代わって、ドアを開けたり、着替えを手伝ったりします。外出時には「介助犬」の表示がある胴着をつけています。

**聴導犬** 耳が聞こえない人に、音を知らせます。例えば、ドアチャイムの音や車のクラクションの音を教えます。外出時には「聴導犬」の表示がある胴着をつけています。

12月3日(同9日)は障害者週間です。障害がある人や障害福祉社についての関心と理解を一層深めるための一週間です。障害は、身体障害、知的障害、精神障害などがありますが、これらの障害は決して特別なものではなく、だれにも生じる可能性があります。さまざまな障害について正しく理解することは、障害のある人ももちろんのこと、障害のない人にとっても

住み良い社会となります。すべての人が快適に生活できる社会を実現するために、障害のある人のことについて、今一度考えてみましょう。今回は身体障害者補助犬を取り上げます。

#### 身体障害者補助犬とは

身体障害者補助犬は、盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います(左上図)。補助犬は、国から認定されており、障害のある人

#### 災害時要援護者支援制度

彦根市では、4月から、災害時要援護者支援制度が始まりました。この制度は災害が起きたときに、一人で避難することが出来ない人を対象に、あらかじめ避難支援を希望する人の登録を行う制度です。災害が起こったときに、地域の中で支援が受けられるようにするものです。近くに高齢の人や障害のある人から、地域の支援者として依頼があったときは、協力をよろしくお願いします。

# 笑顔と幸せを みんなに分かち合おう

だれもが住みやすい社会の実現に向けて

12月3日~9日は障害者週間です

障害福祉課 ☎ 27-9981番、FAX 26-1767番

### 盲導犬と出会ってから

糸なす&クローネ(開出今町)

私は今、盲導犬「クローネ」といっしょに生活しています。クローネのおかげで私の人生は大きく変わりました。私は、目が見えなくなつた最初の一年間は消極的でほとんど外出しませんでした。自分が視覚に障害があると受け入れてからは、仕事を探しました。しかし、一般の会社に入るのには難しく、知人に相談のつてもらった結果、京都の学校で3年間あんまマッサージの勉強をすることにになりました。その後、彦根に帰って開業するとき、一人でやっていくのは難しいと考え、盲導犬が欲しいと思いました。そのときに、クローネと出会い、それから生活が変わりました。

以前は、自分の家から、彦根駅まで白杖で歩いて、往復2時間半もかかっていました。クローネといっしょになつてからは、移動時間が短くなり、助かっています。また、以前よりも外出が嫌でなくなり、今では機会があれば、さまざまな場所へ行くこと



▲障害者福祉センター前を歩く糸さんとクローネ